

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：水戸どんぐりの家	種別：共同生活援助	
代表者氏名：管理者 高久 精一郎	定員（利用人数）：	13名
所在地：〒310-0901 茨城県水戸市田野町 831 番地の1		
TEL：029-229-8860	ホームページ：http://mitodongurinoie.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成18年10月1日		
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 育実会		
職員数	常勤職員： 3名	非常勤職員： 5名
専門職員	（専門職の名称） 0名	
施設・設備の概要	（居室数） 13室	（設備等） 食堂・浴室・トイレ・宿直室

③理念・基本方針

選別主義に陥らない。管理主義に陥らない。人権侵害を許さない。

④施設・事業所の特徴的な取組

行動障害のある方に多く利用していただいています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年7月7日（契約日）～令和8年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（平成 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

多様な機関との協働により実効性の高い地域支援を推進している

・近隣の障害者福祉施設と連携した勉強会やケース検討、地域課題への共同対応を継続的に行い、実践的な協働の取り組みが積み重ねられている。これらの活動は職員会議で共有され、組織全体での理解と実践につながっている。また、水戸市障がい福祉課や自立支援協議会、水戸市社会福祉協議会、相談支援事業所、特別支援学校、医療機関などとの連携により、地域の関係機関とのネットワークが構築されている。さらに、利用者のアフターケアを含めた支援にも取り組み、地域に根差した支援体制の充実が図られている。

さまざまな心身状況の利用者も受け入れ、支援体制が作られている

・施設は知的あるいは精神障害など幅広い利用者を中心に受け入れており、さらに利用者の重度化や高齢化が進んでいる傾向が否めない状況になっている。健康面のチェック、対応は欠かせないことを踏まえ、医療機関とも連携して利用者の健康管理を行っている。また、自宅とは異なる集団生活であることから、人間関係や心身の状態などを踏まえ、活動スペースや居室環境の工夫を行っている。さらに、クールダウンが必要な際に利用できる環境なども用意し、「利用者本位のサービス提供」に取り組んでいる。

その人らしく1日を過ごせるように支援している

・1日の中で決められた日中活動への参加プログラムを除いては、時間的な制約を設けておらず、自由に過ごしてもらえるようにしたり、自宅での生活の延長になるように配慮している。ホームの見学を行った際にも、自宅で行っていた趣味活動を継続して楽しんでいる様子が見えたと。また、利用期間中に新たな要望などを受け付けた際には、家族や成年後見人などの確認を取り、同意を得た上で迅速に対処している。

介護職員間での利用者情報の共有を図り、支援に役立たせている

・利用者同士がお互いに気持ちよく関わり、思いが適切に伝わるように、職員が適宜介入する支援を取り入れている。また、食席への配慮をはじめ、利用者同士のいさかいなどが生じた際には職員が都度仲裁し、適切に利用者同士が関わられるようなきっかけ作りに取り組んでいる。それらの機会を通じて、職員の介入による利用者同士の関係作りに加え、職員は利用者同士の助け合いにつながることを目指している。関係機関が参加する会議などを通じて情報共有を図り支援に役立っている。

◇改善を求められる点

職員の能力と成果を反映した人事評価と職員の成長を支える人事制度の再構築が期待される

・人事基準は就業規則や給与規程に基づき整備され、理念や基本方針、運営方針の中で期待する職員像も示されており、人事制度の基盤は確立されている。しかし、人事考課は一律で給与テーブルに沿った運用が中心となっており、職員の専門性や成果、貢献度が評価に十分反映されているとはいえない状況である。このため、評価結果が処遇や育成に結びつく仕組みとしては改善の余地がある。今後はキャリアパスの明確化や階層別研修、目標管理の導入、評価結果のフィードバック、意向調査の活用などを通じて、評価と処遇を連動させた仕組みが機能し、職員一人ひとりが将来像を描きながら成長できる人事制度の再構築が期待される。

自立支援について話し合い、介助しすぎないケアを目指している

・施設として、利用者一人ひとりの個性を活かした「その人らしさ」を大切にしている。「できることはしてもらい、できないことは支援する」、「見守り、待つ姿勢で日々の業務にあたる」ことに努めている。定例のケア会議やサービス担当者会議などを通じて自立支援について話し合い、全員が共通認識のもとに介助しすぎないケアを目指して取り組んでいる。さらに、組織一丸となって職員の個別指導に力を入れ、利用者の声を聴きながら、利用者の活動量を減らさないような支援を目指している。

事業計画の内容をさらに充実させることが望まれる

・単年度事業計画については法人共通の書式によって作成されており、年初の会議において管理者が説明して職員への理解を促している。内容としては、基本情報をはじめ、職員配置、支援に関わる実施方針や方法、利用者の概要、その他などの項目になっている。分かりやすい書式になっていることはうかがえるが、内容としては運営規定の内容のように見受けられる。前年度の総括をもとに、重点施策の明示、具体的な目標数値、事業推進に関わる業務分担表などを盛り込み、さらに内容を充実させることが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の評価を受けて、さらに質の高いサービス提供に努めます。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）